

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について 教科に関する調査結果

小学校国語

小学校国語A（主として「知識」に関する問題）

《県平均正答率：80.6% 国平均正答率：81.7%》

児童の多くは、今回出題している学習内容を概ね理解している。

全国正答率を上回った問題数	6
全国正答率と同じ問題数	0
全国正答率を下回った問題数	12
問題総数	18

概ね理解している

- ・文部科学省は、今回の調査結果で約8割の平均正答率の教科等について「概ね理解している」と示している。本県においても、これに準じて約8割の平均正答率を示した教科等を「概ね理解している」と表記している。

学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読むことについては、概ね理解している。

文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使うことについては、概ね理解している。

当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くことについては、課題がある。

「相談」・・・全国比 - 4.6ポイント（以下「P」と表示）

「焼く」・・・全国比 - 3.5P

物語の主人公について一文で書かれた内容を理解し、一文を二分の構成にして書き換えることは、全国比 - 0.3P、県の正答率も57.5%と低く、課題がある。

聞き手にとって分かりやすいスピーチにするために大切なことを理解することについては、全国比 - 4.3P、県の正答率も51.4%と低く、課題がある。

小学校国語B（主として「活用」に関する問題）

《県平均正答率：61.0% 国平均正答率：62.0%》

全国的な傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題がある。

全国正答率を上回った問題数	2
全国正答率と同じ問題数	0
全国正答率を下回った問題数	8
問題総数	10

課題がある

- ・文部科学省は、今回の調査結果で7割を下回る平均正答率の教科等について「課題がある」と示している。本県においても、これに準じて7割を下回る平均正答率を示した教科等を「課題がある」と表記している。

取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての的確に読み、その理由を要約することについては、全国比 - 3.1P、県の正答率も42.3%と低く、課題がある。

情報の中から必要な事柄を取り出し、新聞の一部に注意点として書き換えることについては、全国比 - 1.9P、県の正答率も47.1%と低く、課題がある。

【指導改善のポイント】

（1）漢字活用の重視

- ・日常的に漢字を書いたり読んだりする学習活動に加え、学習した漢字を使った様々な語句に触れさせる指導の工夫をする。

（2）読み取り、まとめる力の向上

- ・文章構成を意識して読ませ、自分の考えをまとめる場面を多く設定する。

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について 教科に関する調査結果

小 学 校 算 数

小学校算数A（主として「知識」に関する問題）

《県平均正答率：81.1% 国平均正答率：82.1%》

児童の多くは、今回出題している学習内容を概ね理解している。

全国正答率を上回った問題数	6
全国正答率と同じ問題数	1
全国正答率を下回った問題数	12
問題総数	19

同分母の分数の加法の計算をすることは、概ね理解している。

真分数を数直線上に表すことは、概ね理解している。

平行四辺形の面積を求める公式を理解し、面積を求めることは、概ね理解している。

整数と小数の除法の計算をすることは、全国比 - 5.5 P、県の正答率も67.2%と低く、課題がある。

三つの分数と小数の中で最大の数を見つけ、数直線上に表すことは、全国比 - 7.8 P、県の正答率も47.8%と低く、課題がある。

小学校算数B（主として「活用」に関する問題）

《県平均正答率：61.4% 国平均正答率：63.6%》

全国的な傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題がある。

全国正答率を上回った問題数	2
全国正答率と同じ問題数	0
全国正答率を下回った問題数	12
問題総数	14

棒グラフから人数の大きさをよみとることは、概ね理解している。

棒グラフから人数の変化の様子をよみとることは、概ね理解している。

計算の工夫をよみとり、それを用いて異なる数値の問題の解決方法を説明することは、全国比 - 6.3 P、県の正答率も52.5%と低く、課題がある。

条件を基に各曜日の代金を求めて比較することは、全国比 - 5.1 P、県の正答率も24.1%と低く、課題がある。

地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明することは、県の正答率が15.4%と低く、全国的な傾向と同様、課題がある。

【指導改善のポイント】

- (1) 算数的活動の重視
 - ・計算については、答えの大きさを見積もる活動を設定する。
 - ・分数や小数、整数の関係については、小数と分数を一つの数直線上に表す活動を通し、数の大きさを実感できるようにする。
- (2) 説明する力の育成
 - ・式や図を使って自分の考えを相手に伝えるなど、児童同士の学び合いの場を充実させる。
- (3) 日常生活と関連の工夫
 - ・買い物など日常生活の問題場面を取り入れたり、身の回りから算数にかかわる事柄を見つける活動を取り入れたりし、学習したことを実感として捉え、理解が一層深まるようにする。

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について 教科に関する調査結果

中学校国語

中学校国語A（主として「知識」に関する問題）

《県平均正答率：80.8% 国平均正答率：81.6%》

生徒の多くは、今回出題の学習内容を概ね身に付けている。

全国正答率を上回った問題数	11
全国正答率と同じ問題数	1
全国正答率を下回った問題数	25
問題総数	37

伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめることは、概ね身に付けている。

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことは、概ね身に付けている。

手紙の後付けの理解については、県の正答率が56.0%で課題がある。

文脈に即して漢字を正しく書くことについては、課題がある。

「りえき」・・・全国比 - 7.7 P

文脈に即して漢字を正しく読むことについては、課題がある。

「繁茂」・・・全国比 - 17.0 P

概ね身に付けている

・文部科学省は、今回の調査結果で約8割の平均正答率の教科等について「概ね身に付けている」と示している。本県においても、これに準じて約8割の平均正答率を示した教科等を「概ね身に付けている」と表記している。

中学校国語B（主として「活用」に関する問題）

《県平均正答率：71.0% 国平均正答率：72.0%》

全国的な傾向と同様、知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

全国正答率を上回った問題数	2
全国正答率と同じ問題数	0
全国正答率を下回った問題数	8
問題総数	10

必要な情報を収集し、表現に生かすことは、概ね身に付けている。

資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事項や考えを明確にして書くことは、全国比 - 1.9 P、県の正答率も40.7%と低く、課題がある。

更に身に付けさせる必要がある

・文部科学省は、今回の調査結果で約7割の平均正答率の教科等について「更に身に付けさせる必要がある」と示している。本県においても、これに準じて約7割の平均正答率を示した教科等を「更に身に付けさせる必要がある」と表記している。

【指導改善のポイント】

(1) 漢字活用の重視

- ・読んだり書いたりする機会を多くして習熟を図ったり、国語辞典や漢和辞典を積極的に利用させたりする。
- ・定着率の低い漢字を重点的に取り扱う。

(2) 書く力の向上

- ・様々な条件に応じて、伝えたいことや考えたことを明確にしながら記述する場면을多く設定する。
- ・ねらいを明確にした例文を示したりするなど、書き方のスキルを高める工夫をする。

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について 教科に関する調査結果

中学校数学

中学校数学A（主として「知識」に関する問題）

《県平均正答率：70.3% 国平均正答率：71.9%》

全国的な傾向と同様、基礎的・基本的な知識や技能を更に身に付けさせる必要がある。

全国正答率を上回った問題数	6
全国正答率と同じ問題数	0
全国正答率を下回った問題数	30
問題総数	36

円柱が長方形の回転により構成されていることについては、概ね身に付けている。

平行線に直線が交わってできる角の性質については、概ね身に付けている。

四則を含む正の数と負の数の計算をすることについては、全国比 - 5.2 P，県の正答率71.9%であり、身に付けているとは言えない。

底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係については、全国比 - 5.2 P，県の正答率31.3%であり、課題がある。

樹形図や表などを利用して、場合の数を求めることは、全国比 - 5.6 P，県の正答率62.0%であり、課題がある。

中学校数学B（主として「活用」に関する問題）

《県平均正答率：59.4% 国平均正答率：60.6%》

全国的な傾向と同様、知識や技能を活用する力に課題がある。

全国正答率を上回った問題数	8
全国正答率と同じ問題数	0
全国正答率を下回った問題数	9
問題総数	17

情報を的確に処理し、その結果を比較することは、概ね身に付けている。

グラフから情報をよみとることは、概ね身に付けている。

情報を分類整理することは、全国比 - 6.3 P，県の正答率61.8%であり、課題がある。

グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることは、全国比 - 2.4 P，県の正答率28.7%であり、課題がある。

課題がある

・文部科学省は、今回の調査結果で7割を下回る平均正答率の教科等について「課題がある」と示している。本県においても、これに準じて7割を下回る平均正答率を示した教科等を「課題がある」と表記している。

【指導改善のポイント】

- (1) 計算技能の確実な定着
 - ・計算の意味の理解を深める指導を行うとともに、数学科の学習全般において繰り返し計算の指導を行う。
- (2) 数学的活動の重視
 - ・体験をとおした実感的な理解を基に、数量や図形についての性質や関係を身に付けさせる。
- (3) 数学的に表現する力の育成
 - ・情報の選択や判断、数学的な性質や関係の成り立ちを、数学的な知識・技能を活用し根拠を示しながら説明する力を育成する。

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

質問紙調査の結果（児童生徒質問紙）

宮城県の小・中学生は、基本的な生活習慣に関する質問に対して、全般的に肯定的な回答をしている。

	小学校	中学校
全国比を上回る項目数 (5P以上上回る項目数)	56 (4)	80 (8)
全国比と同じ項目数	4	3
全国比を下回る項目数 (5P以下回る項目数)	39 (2)	18 (1)

小・中共通

予習・復習に取り組む児童生徒が多い。

予習：小学生・・・全国比 + 3.7 P (36.6%)
 中学生・・・全国比 + 9.8 P (39.3%)
 復習：小学生・・・全国比 + 5.7 P (45.8%)
 中学生・・・全国比 + 6.6 P (45.8%)

児童生徒の平日及び休日の学校以外の学習時間は、かなり少なく課題がある。

平日：小学生・・・全国比 - 7.2 P (18.3%)
 中学生・・・全国比 - 8.0 P (27.4%)
 休日：小学生・・・全国比 - 5.8 P (5.4%)
 中学生・・・全国比 - 3.1 P (11.8%)

勉強する時間を自分で決めて実行する児童生徒が多い。

小学生・・・全国比 + 3.2 P
 中学生・・・全国比 + 3.0 P

地域の歴史や自然に関心がある児童生徒が多い。

()内の数値は、予習・復習について「している」「どちらかといえはしている」と回答した児童生徒の割合

()内の数値は、平日は「2時間以上」、休日は「3時間以上」と回答した児童生徒の割合

小学校

地域行事や清掃活動に参加する児童が多い。

地域行事への参加・・・全国比 + 10.6 P
 清掃活動への参加・・・全国比 + 6.1 P

早寝早起きをし、家族と朝食を一緒に食べている。

テレビゲームやインターネットをする時間が長い。

平日1時間以上する・・・全国比 - 4.7 P

中学校

学校の部活動に参加し、運動やスポーツに励んでいる。

学校の部活動への参加・・・全国比 + 9.2 P

清掃活動に参加する生徒が多い・・・全国比 + 8.6 P

総合的な学習の時間の勉強が好きな生徒が多い・・・全国比 + 8.4 P

朝早く起きて、家族と一緒に朝食を食べている。

家の手伝いをしている生徒が多い。

国語の授業では「友達と語り合ったりして意見を交換する場面」や「自分の思いや考えを書く活動」が多いと回答した生徒が多い。

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

質問紙調査の結果（学校質問紙）

< 学力向上に向けた取組 >

放課後を利用して補充的な学習を行っている割合が高い。

小学校：全国比 + 20.1 P

中学校：全国比 + 6.4 P

長期休業期間を利用して補充的な学習を行っている割合が少ない。

小学校：全国比 - 6.6 P

中学校：全国比 - 6.1 P

学力向上のための研究指定を受けた学校の割合が低い。

小学校：全国比 - 11.2 P

中学校：全国比 - 10.2 P

< 学力の把握 >

県及び各学校での学力調査の実施率が高い。

県の調査実施率

小学校：全国比 + 35.7 P

中学校：全国比 + 30.9 P

学校の標準学力調査実施率

小学校：全国比 + 17.1 P

中学校：全国比 + 22.0 P

市町村が実施する学力調査の実施率が低い。

小学校：全国比 - 22.8 P

中学校：全国比 - 23.3 P

中学校での単元テスト・小テストの結果分析をする学校が少ない。

全国比 - 5.9 P 県実施率：75.6%

< 個に応じた指導 >

中学校の数学は、習熟の程度に応じた指導が比較的多く行われている。

小・中学校ともに国語における習熟の程度に応じた指導の実施率が東北6県の中で低い。